週刊読書人

毎週金曜日発行
定価　260円
本体　248円
株式会社 読書人 発行
東京都新宿区矢来町109
郵便番号162-0805
電　話　03(3260)5791(代)
FAX　03(3260)5507
振替口座　00150-9-57070
前金購読料50週11500円
http://www.dokushojin.co.jp
©株式会社読書人2014

# 姜尚中氏、西谷正氏講演・対談

（「文化財で楽しむ日韓交流」5周年記念講演）載

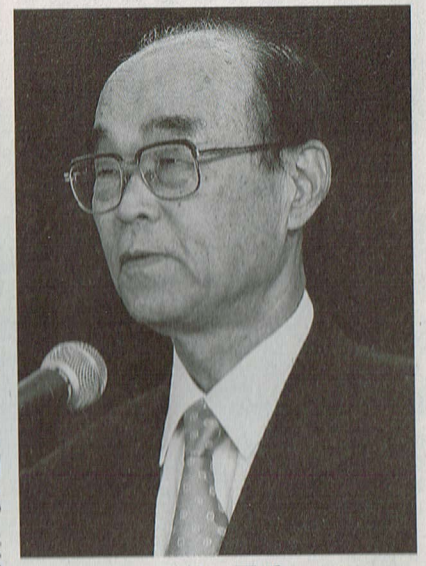
# ともにアジアに生きる

## 九州の役割と魅力—古代そして現在

ハルビン駅の安重根記念館開館に伴う日中韓の思惑や発言、北朝鮮から聞こえるニュース……アジア情勢の緊張は年が明けてなお一層増すかの現実がある。その状況の中今回は、政治学者の姜尚中氏と考古学者の西谷正氏が、昨年11月24日、福岡県糸島市の東風（はるかぜ）小学校体育館で行った講演及び対談「ともにアジアに生きる　古代に学ぶ、九州の役割と魅力」を載録させていただいた。九州地方が歴史の中で担ってきた役割、その郷土に学び、また古代史、近現代政治史に基づいた視野の広い考察から、今後の日中韓関係への示唆を得られれば、と思う。（編集部）

〈※主催・「文化財で楽しむ日韓交流」5周年記念講演実行委員会、事務局・かたらんね（代表松山ちあき）〉

姜　尚中氏


西谷　正氏

1・2面写真提供　㈲かたらんね
撮影　針金洋介（テクニスタッフ）

### Ⅰ．西谷正氏講演

## 国際交流は弥生時代に生じていた！

皆さんこんにちは。皆さんは今朝、あるいは昼にご飯を食べたことでしょうが、その起源は今から二五〇〇年ほど前に、当時の韓半島からこの北部九州に伝来した稲作農耕に始まるものです。また、ご飯を食べるときに用いる茶碗は、今から四〇〇年余り前の、豊臣秀吉による韓半島出兵「文禄・慶長の役」の後、韓半島から連れて来られた陶工が伝えたものに由来しています。このことだけでも私たちの日常生活の基本が、韓半島と密接に繋がっていることが大分分かりいただけるかと思います。

日本列島を中心に地図を眺めると、九州は列島の西南端に位置していますが、視野をもっと大きく東アジアに広げれば、少し違って見えてきます。東京から福岡までの距離は九〇〇キロ。それを半径に円を描くと、韓半島の西側、現在の中国と北朝鮮との国境がある鴨緑江の下流域に達します。西には現在の上海に匹敵する揚子江下流域、南は現在の沖縄、かつての琉球に至ります。そのような地理的な位置づけから見て、この九州・福岡という場所が、東アジアの交流の拠点であったと理解できるのです。その拠点としての役割は、古代に留まらず、中世、近世、あるいは近代へと続くのです。が、本日は古代に絞ってお話しします。

日本列島に人が住みだしたのは今から二万五千年ぐらい前の旧石器時代です。中国で発見された北京原人のことはご存じかと思いますが、中国では旧石器時代は何十万年という長い間続いており、韓半島でも三千万年ぐらい前に人が住み着き始めたということが、最近明らかになっています。日本は、というと残念ながら、二万五千年と比較的新しいのです（笑）。しかし調査研究が進めば、遡ることも十分に考えられます。

この時代の特色は、自然環境の大きな変動です。地球規模の氷河期は何十万年もの間に四回ほどあり、そのたびに動物たちが暖かい地を求めて移動し、その動物を追って人類も移動しました。その流れの中で、大陸・韓半島を通って、人々が日本列島に移動してきたと考えることができます。

その後、地球に温暖な時期が訪れ、一万二千年ほど前に、現在に見る陸地の基礎が形作られます。そこで人類の文化にとって革命的なことが起きます。土器の発明です。それ以前に、「何かを用いて、煮る」ということだけを用いて、煮る」ということに、日本では櫛目文土器が誕生しました。その流れの中で、大国では櫛目文土器が誕生しました。その流れの中で、大韓国でも、同じ文土器が誕生しました。その流れの中で、大集文化が一万年ほど前に（「何かを用いて、煮る」ということすが、その時代では、対馬海峡を挟んで、人々の往来があったことは、当時の土器、漁労具などから明らかです。互の往来があったことは、当時の土器、漁労具などから明らかです。のことは、当時の土器、漁労具などから明らかです。で造られた土器が、釜山周辺の貝塚などから見つかったりしています。他にもこれは北部九州で、それまで続いた採取経済から農耕に移行する時期にあたります。

日本にも、「縄文文化圏」が存在したという仮説がらされ、品の流れの中で、今から二万五千年ぐらい前に、「何かを用いて、煮る」ということだけを用いて、煮る」ということに、日本では櫛目文土器が誕生しました。その流れの中で、大国では櫛目文土器が誕生しました。その流れの中で、大韓国でも、同じ文土器が誕生しました。その流れの中で、大集文化が一万年ほど前に（「何かを用いて、煮る」ということすが、その時代では、対馬海峡を挟んで、人々の往来があったことは、当時の土器、漁労具などから明らかです。互の往来があったことは、当時の土器、漁労具などから明らかです。のことは、当時の土器、漁労具などから明らかです。で造られた土器が、釜山周辺の貝塚などから見つかったりしています。他にもこれは北部九州で、それまで続いた採取経済から農耕に移行する時期にあたります。

日本にも、「縄文文化圏」が存在したという仮説がらされ、品の流れの中で、今から二万五千年ぐらい前に、「何かを用いて、煮る」ということだけを用いて、煮る」ということに、日本では櫛目文土器が誕生しました。その流れの中で、大国では櫛目文土器が誕生しました。その流れの中で、大韓国でも、同じ文土器が誕生しました。その流れの中で、大集文化が一万年ほど前に（「何かを用いて、煮る」ということすが、その時代では、対馬海峡を挟んで、人々の往来があったことは、当時の土器、漁労具などから明らかです。互の往来があったことは、当時の土器、漁労具などから明らかです。のことは、当時の土器、漁労具などから明らかです。で造られた土器が、釜山周辺の貝塚などから見つかったりしています。他にもこれは北部九州で、それまで続いた採取経済から農耕に移行する時期にあたります。

読書人の贈りもの。
全国共通図書カード

アイデアインク10
本の逆襲
内沼晋太郎著
定価：987円
朝日出版社

本の未来を考える2冊

ポプラ新書
紙の本は、滅びない
福嶋聡著
定価：819円
ポプラ社

クに他の小せようとした漢帝国との国際交は、現代のどころか、の弥生時代たのです。漢の時代、日本の小国たのでしょ漢帝国の外いました。地帯には遊いて、絶えんでいまし攻撃を避けな対処とし里の長城で、二千数百

# 『キューティー&ボクサー』座談会

（篠原有司男・乃り子・田名網敬一・秋山祐徳太子・康芳夫）

8面

## 今週の読物


▽第99回全国図書館大会・福岡大会報告㊦（森　茜）……（7）
◇連載＝日常の向こう側　ぼくの内側⑫⑥（横尾忠則）……（3）
◇連載＝『週刊コウロン』波乱短命顚末記㉛（水口義朗）……（3）
◇連載＝漢字点心⑦⓪（円満字二郎）……（3）
◇連載＝文学の時へ一月▽（安倍夜郎）……（3）
◇連載＝活字シアター⑤㉑（困難と闘い名著大著を刊行してきた冨山房の巻㊵）……（7）
◇連載＝安西水丸の〇月〇日②（安西水丸）……（7）


## 今週の書評


▽佐藤全弘・藤井茂著「新渡戸稲造事典」（草原克豪）
▽鈴木俊洋著「数学の現象学」（佐々木力）
▽西村もも子著「知的財産権の国際政治経済学」（京　俊介）

〈5面〉

▽日本歌謡学会編「日本の歌謡を旅する」（田渕句美子）
▽中沢けい著「動物園の王子」（寺田　操）
▽逢坂剛著「さらばスペインの日日」（川成　洋）
▽松澤宥選詩集「星またはストリップ・ショウ」（中ザワヒデキ）

〈6面〉

▽波多野勝著「日米野球の架け橋」（池井　優）
▽本木達也著「井上竹次郎伝」（安宅夏夫）
▽駒井洋監修・小林真生編著「レイシズムと外国人嫌悪」／前田朗編「なぜ、いまヘイト・スピーチなのか」（石原　俊）
▽小林康夫著「ミケル・バルセロの世界」（アライ＝ヒロユキ）

〈4面〉

▽ヨハネス・ケプラー著「新天文学」（金子　務）


# 「国際」と「民際」の二重構造

ってはの脅威となります。匈奴対策として、倭の外交使節にも応対したのです。漢帝国にとたわけです。

注目したいのは、外交の二重構造です。北部勢力の新羅が加耶国の一部を領土化したことに対し、五二七年、倭の継体大王は六万の軍隊を加耶に派遣しようとします。それに対して北部九州の大豪族・筑紫君磐井がヤマト王権に対して反乱を起こしたのが、磐井の乱です。真実かどうかは分かりませんが、『日本書紀』には、新羅が賄賂を渡して、日本の内部からヤマト王権の派兵を食い止めようとした、と書かれています。つまり、国家レベルでは新羅とヤマト王権は対立していましたが、磐井などの地方豪族は独自に新羅と交流があったということなのです。国家レベルの外交と地域レベルの交流との二重構造になっていた、と考えられます。

国と国の外交を「国際」というなら、地方豪族を含めた民間レベルの交流を私は「民際」と呼びたいと思います。国際・民際の二重性。地域や人々の交流である民際は、何万年も前から続いており、現在も続く、とても重要な交流だと考えています。

さて、数百年間続いた古墳時代の終わりごろ、飛鳥時代に新しい社会現象が起こってきます。仏教の伝来です。飛鳥仏教は百済から伝来した百済仏教と考えるのが定説ですが、私は合わせて、高句麗との関係も色濃いと思っています。五六二年に加耶を滅ぼしたことで新羅は力を得、さらに唐と組んで百済と高句麗を相ついで倒し、やがて半島を統一します。そのように強大化する新羅に対抗するものとして、倭と百済の交流深化が考えられますが、高句麗も同様に、飛鳥時代に倭との交流をもつのです。その折に、高句麗仏教も伝来します。聖徳太子の仏教の師匠・恵慈（慧慈）は高句麗の僧です。法興寺（飛鳥寺）を創建するとき、携わったのは百済の人ですが、高句麗は金三〇〇両を寄付しています。新羅が強大化していくうねりの中で、倭と百済や高句麗の関係が深められていく、という背景がありました。

やがて仏教を鎮護国家の理念としたのが奈良時代です。奈良は大変すばらしい時代だったと、私は思っています。東アジアの分裂時代が終わり、中国は唐、韓国は新羅、やや遅れて北方に渤海ができ、日本では奈良。それぞれに統一国家が誕生し、経済が栄え、文化が発展し、交流が花開く時代に入ります。奈良時代、大陸に向けた拠点として、九州に大宰府が設置されました。海岸部に迎賓館として筑紫館、やがて平安時代鴻臚館が営まれ、国際的な政治・経済の窓口になります。日本や韓国の新羅も渤海も、積極的に唐に人を送ってその文化を学び、それぞれの地域に伝えました。唐の影響によって、周辺諸国も統一国家として完成していきますが、その軸となったものが「律令制度」です。行政法や刑法によって国を治めるという法治国家が誕生します。つまり、唐帝国を中心に、日本では北部九州を拠点とした「東アジア共同体」が姿を現すのです。

縄文時代の昔から現在まで、東アジアにおいて対外交流の拠点であった九州は、異文化に直に触れることによって文化が積み重ねられ、外交・経済、文化が発展してきた土地です。地理的にも歴史的にも自由な交流拠点だった福岡は、今後も東アジアの政治の安定、経済の発展、文化交流の拠点として重要な立場にあります。そのことを自覚しながら、そうあるべき努力を続けることが必要だと申し上げて、お話を終わります。


人をあるく日蓮と鎌

予言、抗争、流罪―。卓抜した行動で法華経の波瀾の生涯を活写。鎌倉の日蓮宗寺院をつなぐコミュニケーションの実態。（歴史文

戦乱の中の情報伝

酒井紀美著　年貢の未納、代官の殺害、百姓で変容・拡大する遊廓社会の実態を描き出

シリーズ遊廓社会

佐賀　朝・吉田伸之編　居留地・軍都・温

太田博樹・長谷川眞理子 編著
ヒトは病気とともに進化した
病気はなぜ存在するのだろうか。進化医学の最先端の知見。2835円

K.ステレルニー／田中・中尾ほか訳
進化の弟子
ヒトは学んで人になった の系統」の物語を紡ぐ。「我々 3570円

菊地原洋平 著／ヒロ・ヒライ 編集
パラケルススと魔術的ルネサンス
近代医学の創始者か魔術師か？その世界観を明らかに。 5565円

大垣尚司

世界思想社

カヤネズミの本　カヤネズミたちの貴重

愛くるしく健気なカヤネズミたちの貴重

イギリスの今　文化的ア

マイク・ストーリー／ピーター・チャイル

変動著しいイギリス文化の現状把握に最

イギリス理想主義の

日本イギリス理想主義学会設立10周年記

現代自由・民主主義の源流思想と河合栄

国際堺学を学ぶ人の

産業・文化・教育等の現状分析を通して

日本人の文革認

文化大革命に共鳴した日本人は、

のように変ったか、変わらなかった

来の転向研究を一新する力作。

【ワードマップ】
現代中国
大沢 昇 著

中国とは何

中南海、先

社会主義市

ワードで

解く。

ドイツでは聖書に次ぐ発行部

一〇〇年の歳月を経てつい

カール・マイ 冒険物語 1 オ

サハラ砂漠か

「旦那、お前様がいつまでも異教

いようってのは本当です

――この冬、カール・マイとオリエント

専修大学出版局

大相撲の歴史に見る

根間弘海著　画像資料を配し、南部

などを詳細に解説。大相撲をさら

神兵隊事件　別巻

専修大学今村法律研究室編　昭和

時の国家改造計画や経済政策案、

日本政治の転換

藤本一美著　この十年余の日本の